



別海町立中春別中学校



学校だより

令和5年6月29日 発行 校長 葛迫 勝秋

教育目標：【中春っ子 未来を拓こう みんなの笑顔】

～自らの未来に向かって、目標を高く持ち、仲間と協調しながら前向きに挑戦する子どもを育てる～

### 『非認知能力』の向上

校長 葛迫 勝秋

子どもの「確かな学力」を身につけるためには「非認知能力」の向上が大切です。人間の能力は、大きく「認知能力」と「非認知能力」の2種類に分けられます。「認知能力」とは、テストの点数や偏差値、知能指数などといった数値で表せる力のことで、「非認知能力」とは、数値では表せない力、例えば、「目標を決めて取り組む」「意欲や興味を持つ」「新しい発想をする」「周りの人と円滑なコミュニケーションをとる」といった力のことで、子どもが人生を豊かにする上でとても大切な能力です。



非認知能力を伸ばすための教育として、子どもと接する際、いくつかのことを意識するだけで、その後の非認知能力が大きく伸びると言われています。学校とご家庭で、ともに以下を共有しておきたいと思います。

### 子どものやりたいことを尊重する

子どもは、身近にある多くの物事に関心を示し、いろいろな行動を起こします。その中には、大人からすると無意味に見える行動もあるでしょう。しかし、たとえ無意味に思えたとしても、その行動を止めたりせず、寄り添い、見守ってあげましょう。子どもの興味関心を尊重することは「探求心」や「自己肯定感」を育むことへと繋がります。これらの能力は大人になってからも役立つ非常に重要なスキルです。

### 「否定」ではなく「提案」

子どもがやることの中には、人に迷惑が掛かってしまうこともあります。「してはいけないこと」を教えるのは私たち大人の重要な役目ですが、ここでも意識してほしいことがあります。頭ごなしに子どもを叱ってしまうと、子どもはなぜ叱られているのかわからず、自分を否定してしまいます。これは自信の喪失へと繋がります。この時期に失った自信は取り戻すのが難しく、大人になっても自己肯定感を持ってないことが多いのです。子どもを叱るときには、まず「なぜいけないのか」という理由を説明してあげてください。そのうえで「こうしてみようか」と提案するように諭すことで、子どもは自己肯定感を失うことなく「どうすれば良いか」を学ぶことができます。

### 最も大切なのは、保護者は『無償の愛』、職員は『教育的愛情』

非認知能力を伸ばすのに最も大切なこと。それは何よりも、保護者からの無償の愛をもって子どもと接すること。子どもは、保護者との緻密なコミュニケーションのなかで、安心感や信頼感を得ます。

- ・良いことをしたら褒めてあげる。 ・寂しそうにしていたら一緒に遊んであげる。
- ・不安そうにしていたら寄り添ってあげる。 このような小さなことの積み重ねが、子どもの非認知能力を大きく伸ばすと言われています。私たち職員も「教育的愛情」（子ども一人一人の個性を尊重し、よさや可能性、成長の余地などに目を向け、それを伸ばす）をもって子どもたちの非認知能力の向上に努めてまいります。